

昭和62年4月第10号

発行所 那珂郡那珂町後台
3168-2
茨城県弓道連盟
電話 (0292-98-6130)

昭和六十一年度回顧

成年男女とも活躍 鍛えられた「射術・体配」

副会長
理事長 猪野嘉久

本年度を顧みると、社会人、学校ともにもう一步の感じがする。

中学は、関係者の尽力により加盟校も増加し、全国中学生通信大会において、山崎務（清真学園）、鎌田久美子（同）、本間久美子（同）がそれぞれ三位に入賞している。

高校は、六月に千葉で開催された関東大会において、鈴木一が男子団体の部で優勝した。鈴木一高は地味ではあるが着実な修練の結果であろう。

本県は、全国大会予選、全国関東ブロック予選、全国選手権関東予選を通過することができなかったことは、かつて全国制覇を達成した本県としては寂しい。関東地区のレベルは向上しているかも知れないが、早急に対策を講じたい、弓道実施校が増加してきてい

る現在、日常の学校における活動を重視し、指導の充実を図り、県や地区の大会開催方法などを検討、精選し、質的向上などに配慮し地味な努力をすることが今後の課題であろう。

大学は、茨城、筑波、流通経済ともに北関東大学リーグ一部で活躍している。特に全関東学生選手権で茨城の山田宏が個人二位に入賞したことは賞賛に価する。

一般では、七月に水戸市で開催された関東教職員大会で、本県は団体二位（関根・河須崎・埴）、個人で境高の中嶋鉄郎が優勝、鹿島高の河須崎恒が三位に入賞した。

山梨国体では、成年女子が遠的五位成年男子が近的二位に入賞した。成年男子の決勝戦終了後、全日本弓道連盟

の齊藤会長と菊地副会長から「射術、体配ともに立派で、観衆をすっかり魅了した近年にない素晴らしいチームだった。ここまですく鍛えた」と感激された言葉をいただいたほどの健闘ぶりであった。主将をつとめた原研東海の関島勝を中心に弓道の理念を探究しながらの真剣な練習に励んだ成果であり茨城の弓道界発展の範となると思う。

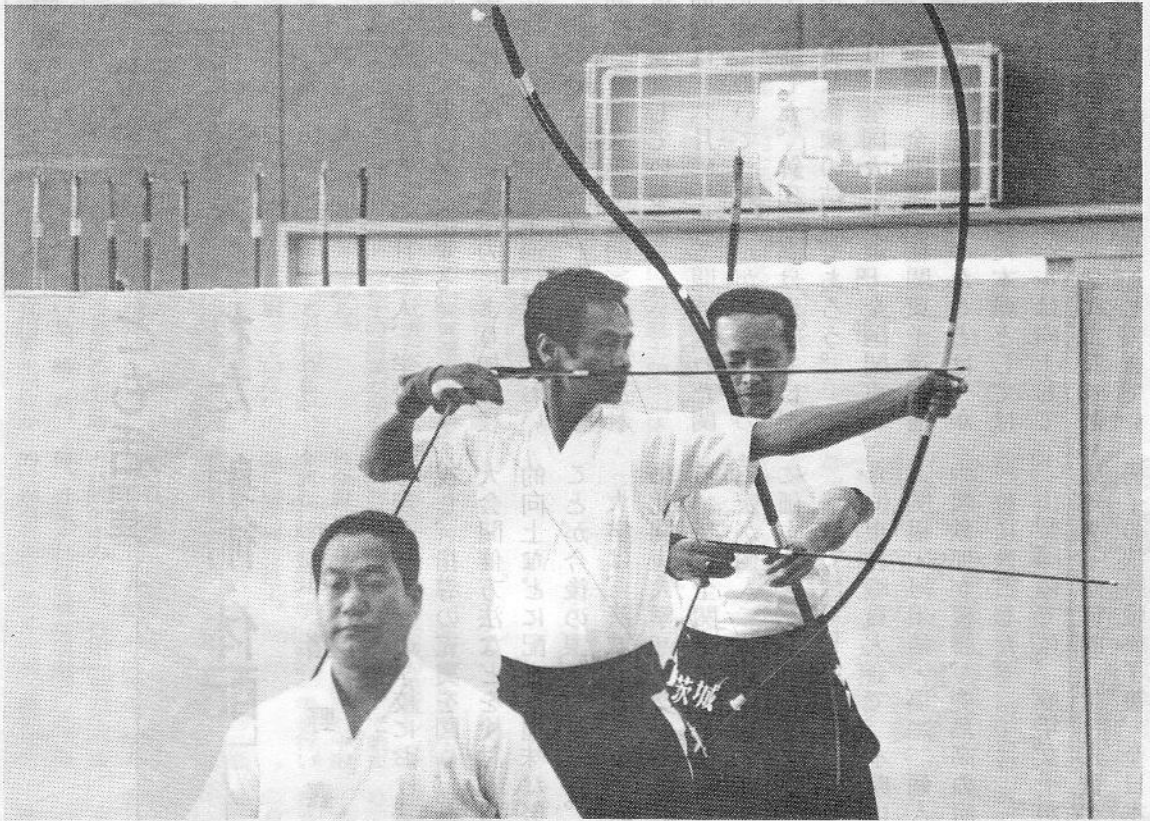
成年男女とも職場と家庭の理解と声援によって達成できたと関係者に感謝したい。関東選手権において藤代の多田修三が有段者の部で優勝したが、多田の修練には頭がさがる。

中野慶吉先生が斯界最高の栄誉である範士十段を認許されたのを契機に創設された「中野杯」は、第十回を迎えた。本県弓道、特に学校弓道の振興に寄与している。

今年度は連盟の機構改革と役員改選とが行われたが、関宗長会長を陣頭に質の向上を目標に今後とも努力したい。特に、新機構による県弓連の中堅層の協力と活躍、各地域の自主的活動と職場弓道、学校弓道の振興充実を期待し来年度は一層の発展の年にしたいと思う。

第41回 国民体育大会 かいじ国体

昭和61年10月12日～17日



茨城県弓道選手団

成年男子近的第二位

久保田	関島	小泉
清	勝	民男



あいさつ 中野喜久夫 氏

第10回記念

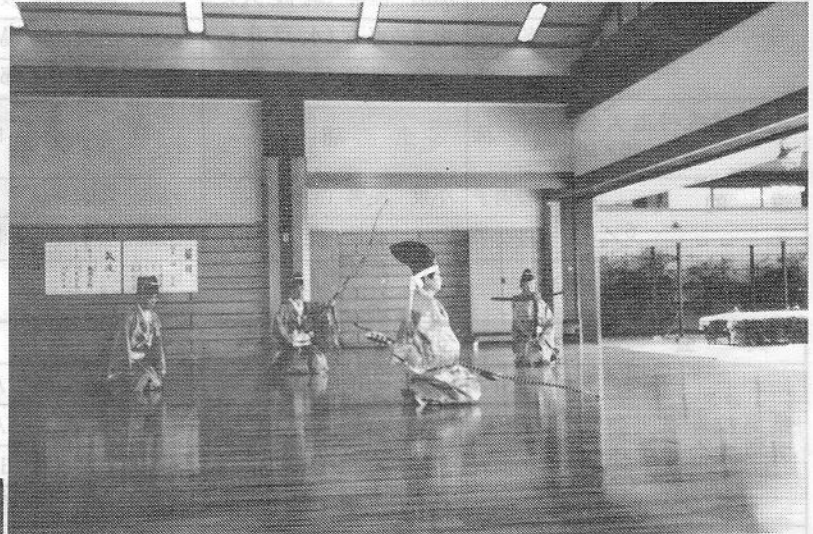
中野杯第十回 記念弓道大会

昭和六十一年九月二十八日

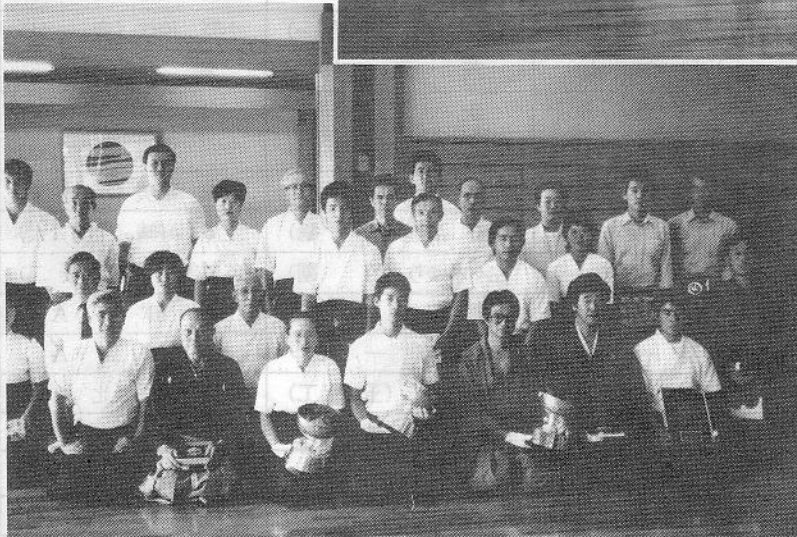
県武道館弓道場

募 目

関 宗長 会長



大会入賞者



大会入賞者
 男子個人 〇〇〇〇
 女子個人 〇〇〇〇
 男子団体 〇〇〇〇
 女子団体 〇〇〇〇
 男子個人 〇〇〇〇
 女子個人 〇〇〇〇
 男子団体 〇〇〇〇
 女子団体 〇〇〇〇

昭 和 61 年 度 大 会 記 録

I 県 内 大 会

(1) 一 般 の 部

大 会 名	種 別	1 位	2 位	3 位
勤労者弓道選手権大会 県 予 選 会 4/13	団 体	百 里	原 研 東 海	東 海 村 役 場
県 春 季 大 会 兼 武 道 館 親 善 弓 道 大 会 4/27	団 体	筑 波 大	桜 村	百 里
	団 体 優 秀	一 境	土 浦	筑 波 大
	個 人	富 所 孝 史 (筑 波 大)	川 崎 信 (百 里)	小 泉 魯 久 雄 (水 戸)
	個 人 優 秀	安 藤 延 典 (土 浦)	中 嶋 鉄 郎 (一 境)	木 村 喜 久 雄 (原 研 東 海)
	女 子	山 崎 公 子 (原 研 東 海)	飯 塚 浩 美 (鹿 島)	野 村 真 知 子 (下 妻)
	称 号 者	白 鳥 悦 男 (潮 来)	明 間 勲 (土 浦)	川 崎 安 之 (勝 田)
県 民 総 体 兼 弓 道 選 手 権 大 会 6/28	成 年 男 子	多 田 修 三 (藤 代 町)	川 崎 信 (百 里)	村 山 久 行 (日 立 電 線)
	成 年 女 子	飯 塚 浩 美 (鹿 島 町)	野 村 真 知 子 (下 妻)	風 間 朋 子 (鹿 島 町)
	称 号 者	沢 田 恒 弥 (土 浦 市)	関 島 勝 (原 研 東 海)	白 鳥 悦 男 (潮 来 町)
中 野 杯 第 10 回 記 念 弓 道 大 会 9/28	一 般 男 子	広 山 直 常 (筑 波 大)	原 田 健 司 (筑 波 大)	津 賀 利 幸 (鉾 田 町)
	一 般 女 子	塩 津 多 恵 子 (水 戸 市)	飯 塚 浩 美 (鹿 島 町)	黒 羽 根 安 子 (原 研 東 海)
	称 号 者	白 鳥 悦 男 (潮 来 町)	荻 原 裕 一 (友 部 町)	山 口 省 吾 (麻 生 町)
支 部 対 抗 弓 道 大 会 10/19	団 体	土 浦 市	藤 代 町	那 那 湊 市 神 栖 町
遠 的 大 会 6/1	一 般 男 子	小 泉 民 男 (原 研 東 海)	松 尾 牧 則 (桜 村)	森 俊 男 (桜 村)
	一 般 女 子	飯 塚 浩 美 (鹿 島 町)	山 崎 公 子 (原 研 東 海)	石 川 紀 子 (原 研 東 海)

(2) 高 校 の 部

大 会 名	種 別	1 位	2 位	3 位
県 高 校 春 季 大 会 兼 関 東 大 会 県 予 選 会 5/9・10	男 子 団 体	鉾 田 一 B	茨 城 東 A	北 総 B
	女 子 団 体	土 浦 三 A	那 珂 湊 一 A	茨 城 東 A
	男 子 個 人	柴 田 哲 男 (那 珂 湊 一)	小 泉 貞 実 (鉾 田 一)	田 島 高 雄 (北 総)
	女 子 個 人	寺 田 美 穂 (下 妻 二)	柴 弥 寿 子 (下 館 一)	小 野 倫 代 (鹿 島)
全 国 高 校 弓 道 大 会 県 予 選 会 兼 県 民 総 体 兼 国 体 茨 城 大 会 兼 高 校 総 体 6/21・22	男 子 団 体	土 浦 日 大	茨 城 東	鉾 田 一
	女 子 団 体	那 珂 湊 一	茨 城 東	下 館 一
	男 子 個 人	高 橋 浩 (土 浦 日 大)	菊 地 俊 和 (茨 城 東)	中 沢 宏 幸 (北 総)
	女 子 個 人	佐 伯 文 (水 戸 二)	黒 沢 恵 (佐 竹)	富 田 晴 美 (茨 城 東)
県 個 人 選 手 権 大 会 兼 関 東 個 人 選 手 権 大 会 県 予 選 8/26・27	男 子 総 合	高 倉 靖 (茨 城)	幸 田 清 隆 (北 総)	上 滝 好 晴 (土 浦 日 大)
	女 子 総 合	金 久 保 佳 子 (下 妻 一)	佐 々 木 ゆ り (竹 園)	谷 田 部 京 子 (下 妻 二)
県 高 校 弓 道 新 人 大 会 兼 全 国 高 校 弓 道 選 手 権 大 会 県 予 選 会 10/18・20	男 子 団 体	北 総 A	那 珂 湊 一 B	鉾 田 一 A
	女 子 団 体	下 妻 一 A	鉾 田 一 A	古 河 二 A
	男 子 個 人	小 野 里 晴 夫 (北 総)	大 原 浩 志 (玉 造 工)	倉 持 昭 一 (北 総)
	女 子 個 人	軍 司 智 子 (鉾 田 一)	広 瀬 明 子 (清 真)	古 谷 志 の ぶ (一 境)
県 高 校 弓 道 秋 季 大 会 兼 中 野 優 勝 旗 争 奪 弓 道 大 会 11/10	男 子	日 立 一	土 浦 日 大	那 珂 湊 一・下 妻 一
	女 子	土 浦 二	古 河 二	石 岡 二・下 妻 二

(3) 中学の部

大会名	種別	1位	2位	3位
県民総体兼国民体育大会 茨城県大会 7/24	男子団体	清真学園中学校	東海南中学校	水戸第二中学校
	女子団体	阿見中学校	内原中学校	愛宕中学校
	男子個人	山崎 勉(清真)	井坂 優一(水戸二)	園部 康光(東海南)
	女子個人	鎌田久美子(阿見)	本間久美子(阿見)	根本 綾子(阿見)
中野杯兼新人大会 11/7	男子団体	清真学園中学校	明光中学校	愛宕中学校 茨城中学校
	女子団体	清真学園中学校	阿見中学校	東海南中学校 内原中学校

II 県外大会

- 第35回住吉大社全国弓道大会(5/1 大阪府住吉大社)
 - 大学の部個人 第1位 原 健太(筑大)
- 第37回全日本弓道大会(5/3・4 濟寧館弓道場)
 - 錬士の競技 第4位 白鳥悦男(潮来)
 - 範士の競技 第2位 矢吹三郎(那珂湊)
- 第30回関東高等学校弓道大会(5/7・8 千葉県総合運動場)
 - 男子団体の部 第1位 鎌田第一高等学校
 - 男子団体優秀 北総高等学校
- 第23回全日本女子弓道大会(6/1 明治神宮)
 - 称号受有者の部 第3位 天 牙子(笠間)
- 第16回全関東学生弓道選手権大会(6/14・15 日本武道館)
 - 男子個人の部 第2位 山田 宏(茨城大)
- 第24回関東教職員弓道大会(7/6 茨城県武道館)
 - 団体の部 第2位 茨城県(関根・河須崎・埴)
 - 個人の部 第1位 中嶋鉄郎(境)
 - 第3位 河須崎 恒(鹿島)
 - 第5位 前野秀明(那珂湊)
- 第27回関東地域弓道選抜選手権大会(9/7 明治神宮)
 - 有段の部 第1位 多田修三(藤代)
- 第41回国民体育大会(10/13~16 山梨県増穂町)
 - 成年男子近的の部 第2位 茨城県
 - 成年女子遠的の部 第5位 茨城県
 - 成年男子総合成績 第5位 茨城県
- 第34回全日本実業団弓道大会(10/24・25 茨城県武道館)
 - 女子事業所対抗 第3位 日本原子力研究所
 - 産業別対抗
(官庁・鉄道) 第1位 航空自衛隊百里基地

関東弓道大会に参加して



藤代支部 多田修三

好天に恵まれた九月七日(日曜日) 東京・明治神宮の至誠館道場には、関東地区各県の選抜選手権代表の「つわもの」が集っていた。

さすがに勇士をしのばせる風姿の若者が多い。今年は第二十七回目の選手権大会。参加者は、称号者五十名、有段者五十名の百名。私より格段とうまそうな人達ばかり。心配だ。不安だ。やたら興奮する。雑念が払えども払えども湧き出てくる。茨城の弓友諸兄は皆落着きはらっている。日頃、指導をいただく先生方の言葉が断片的に頭に浮んでくる。

試会は練習と思え、一射絶命、至誠一箭、二矢に祈りをこめて引け、的は胸中に在り、体配がちょっとおそまつだ、等々。

定刻、地区連合会長橋本範士のご挨拶。「人事を盡して天命を待て。堂々と競射せられよ」。このお話を聴いて落着いた。精神集中だけに心を用いよう。今更どうあがいても日頃の練習以

上のことは望み得ないのだ。弓と矢を布で祈る心地で磨くことにした。競射は、一手三回戦とのこと。一回戦束束。体配等の採点があった。七〇一点。休憩時に矢吹範士から「体配まあまあ良かった、後頑張り」と激励された。一番気にしていることを書められたので、急にリラックス出来た。二回戦も束束。出来過ぎの感じだ。

三回戦、この一手で終りだ。この時ふと、県の武道館で「関東選手権は個人戦ではあるが、県の代表だということとを忘れるな」との範士の言葉が頭をよぎる。心を引き締める。

田矢、的中。はやって大前の私が、おちの広山選手がまだ射っていないのに立とうとし、審判の注意を受ける。しまった。折角体配まあまあと誉められた後なのに。急に心臓がうなり出した澄しが、間のとり方が足りないのだと天の声。夢我夢中のうちに矢が離れた的中りが耳にひびいた。終わった。関島先生、沢田先生、立川先生が好か

茨城・明治弓道会

新年射初め会

五来 清

去る一月十六日、武道館に於て午前十時開会。山口省吾会長の矢渡し(介添阿部政記錬士、五来清錬士)で始まり全員一手礼射、競射一手四回計十射余興として金の一手、銀の一手を行い誠に盛大裡に終了。

出場者十六名、合計年令一二四二歳平均年令七十八・二歳。ことに射結戦では石川一三先生(八十五歳)、石川龍次先生(七十九歳)の両先生、何ん

つた。後頑張りと力づけてくれる。皆中者五名。競射だ。今度はおちた私の立番が来た。的を忘れろ、澄しだ澄しだと念佛のように称えながら引いた。拍手が沸く。誰のための拍手かわからない。退場したら「おめでと〜」といわれ、始めて前立ち選手の外れがわかった。やはりあがっていたのだ。優勝とは私にとって大変な出来、ごご鞭撻を賜りますよう、紙上をお借りで、しみじみ判った。「多人数での射射の回合」最大の反省材料だった。

私は毎日藤代道場に通う。練習に先き立ち、小貝川の堤防で、礼記射義、射法訓を朗唱する。そうしないと、スポーツの射だけで終りそうと不安だからである。弓道は武道だと信じているから。弓道は私の生甲斐である。

今日、この苦しみと喜びの感動を味わせて下さる、久保田錬士始め諸先生先輩方に心から感謝し、今後もご指導ご鞭撻を賜りますよう、紙上をお借りしお願い申し上げます。

の中甲子太郎先生(八十七歳最年長)でした。若年層(七十歳台)汗顔の至りでした。

終了後、新年宴会を催し祝杯をあげ意気盛んにしてあたるべからず、弓道の良さを語り健康のため、また弓道の振興のため、なお一層の精神をちかいた最後に仲野善善教士の作詩による「明治弓道会射初に題す」を吟じ、散会しました。詩文を紹介します。

至誠一箭、礼節を旨とし、射風堂々一糸乱さず、場内静かに満ち、收音響き、心境我無く、射品に徹す。

編集後記

茨城県の弓道界は茨城国体を契機に飛躍的に発展してきたことは会員の皆がみとめるところであろう。大会や審査会、講習会の充実、施設設備面でも県武道館をはじめ各市町村の弓道場の建設などすばらしい。県弓連も会員が増加し、学校弓道実施校も増加している。

現代社会はあまりにも急速に変化するせいか価値観の相違も大きくなり、弓界に期待することも実に多様化して来ている。現在の発展充実には多くの方々の努力と協力があったことである。

社会、特に経済界の不況、不安など弓界をとりまく情勢は今後明るくばかりはない。県弓界が発展して行くためには、このようなきびしい情勢のなかでは互に立場を認めあい、感謝しなごらいたい。

矢渡しが行われているとき「〇〇をまちがった」「××ができてない」：などという囁きを必ず聞く。たしかに、間違いなどある。矢渡しの意義を理解し、射手、介添が一生涯懸命努力している姿をみたものである。特に、高齢の方が身体をかばいながら行射している姿をみたときなど「弓道の素晴らしさを感じる。間違いなどはごまかす、礼射・矢渡しのとときは、無言で温い目で拝見したいものだ。そこに、弓道の真髄にふれることが出来る何かを見出されると思ふ。